

1. 科目設定

平成 27 年度、生徒自身が持つタブレット端末でできる GIS 学習の一環として、RESAS を活用し地域を比較する授業を開始した。高校地理 B においては、自らが暮らしている地域における地域調査が求められているが、時間数の制約から、地域調査の本格的な実施が難しい。そこで、生徒自身が暮らす首都圏の地域と、親族が暮らす地域など任意の都道府県や市町村を首都圏以外から選び、地域の特徴や、地域として挙げられる課題がどのように異なっているかを考察する。

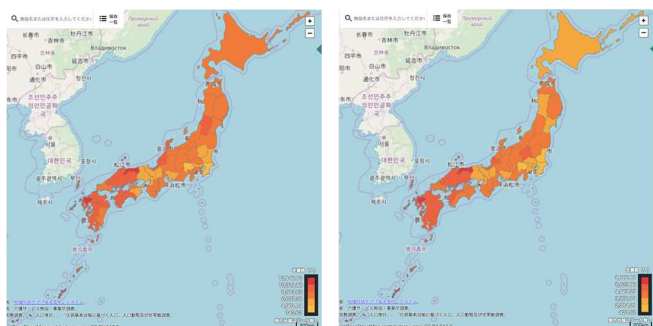
2. RESAS 活用の意義

RESAS は、データを書き込みインプットすることはできないため、地域調査のより詳細な部分はフィールドワークや他の Web-GIS に頼ることとして、地域調査の 1 段階目のステップとして、様々な種別の統計を一覧し地域を概観する点において RESAS が有用である。

3. RESAS の活用

まず、地域のことを概観するより先に RESAS について触れる機会を設ける。基本的にはどのような機能があるかと、メインメニューを簡単に説明するのみで、大部分の時間を操作に慣れることに費やす。後は理解した生徒から、他の生徒へ教え合ってもらうことを前提として授業を進めていく。今回の授業では、福祉に関する地域での問題点を探るという観点で、どの図とどの図を比較すると、どのような問題点が挙げられるかを、RESAS を各自が閲覧し操作することで考察させた。

4. 活用マップ



*いずれも都道府県別 65 歳以上人口 10 万人あたり

5. 授業を実施する上での注意点

まずはじめに、地域の経済循環を促すという観点で、政策を立てる上で 5W1H(いつ、誰が、何が、

なぜ、どこで、どうやって)を踏まえて考察することを確認する。その上で、地域振興には以下の 4 つの段階が考えられることを紹介する。

- ①初めて訪れる観光客を増やすための政策
- ②リピーターを増やすための政策
- ③移住希望者を増やすための政策
- ④地域に暮らしている人のための政策

その上で、政策のターゲットを①～④のどの立場の人に向けて考察するかを明確にさせる。

中間発表は、各班のブースを各自が自由に回る形式とする。最終評価は、プレゼンテーションを行うためのスライドや、レポート執筆といった成果物を提出させる。今回の内容を例とすれば、主に高齢者の介護に関する問題を提起することを想定した地図を示した。関東の中で要介護認定者の割合が高いのは東京都であるが、東京都は介護サービスそのものが相対的に少なくなっており、関東の中では介護サービスが比較的不足しがちな傾向にあることが考えられる。全国的に見れば、要介護認定者は日本海側で多いが、中でも秋田県は介護サービスの供給定員数が少ない訳ではないものの、在宅サービスの定員数が割合上で見ると少なくなっており、介護サービスは不足する傾向にないが、在宅サービスは慢性的に不足していることが考えられるといった内容の説明ができれば良い。

数字として示された統計からの言語化は難易度が高いが、図化されたものから特徴を読み取るならば、難易度は比較的低下する。言語化そのものが難しい場合は、キーワードを用いてフローチャートを作成するというだけでも十分であろう。さらに生徒のレベルに応じて、複数の分野の図を挙げ、説明に加えさせることを求めても良いのではないだろうか。例えば先ほどの福祉の例に当てはめると、企業活動マップのうち企業情報として介護サービスを手がける企業の黒字赤字比率を示すことや、医療分野からの視点で福祉を見つめるといったものである。